

1 第5次基本計画における考え方（第3回作業部会資料より）

○計画の構成（長期ビジョンと実行計画）

現行計画の問題点と国のごみ処理基本計画策定指針を踏まえ、長期的な基本方針や目標を示す「長期ビジョン」と具体的な施策等を示した「実行計画」で構成する。

○計画期間

・**長期ビジョン：10年間** [2021年度(令和3年度)～2030年度(令和12年度)]

【設定の考え方】

- ・国のごみ処理基本計画策定指針において、目標を概ね10年から15年先とすることが示されている
- ・国等においては、
国の循環型社会形成推進基本計画の食品ロス削減量
プラスチック資源循環戦略におけるワンウェイプラスチック排出抑制量等
SDGs2030アジェンダ
などの取組みの目標年が2030年に設定されている
以上の点を踏まえ、10年間の長期ビジョンとする。

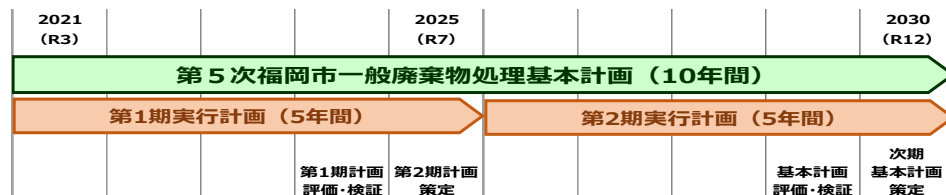
・**実行計画：5年間**

【設定の考え方】

- ・国のごみ処理基本計画基本計画策定指針において、概ね5年毎に改定することが示されている
- ・国の循環型社会形成推進基本計画は、概ね5年毎に見直しが行われている
以上の点を踏まえ、5年間の実行計画とする。

○進行管理方法

・実行計画の4年目に施策の評価検証を行い、検証結果や人口や経済状況など社会情勢の変化を踏まえ、5年目に次期実行計画を策定し、長期ビジョンの目標についても合わせて見直しを行う。



2 前回作業部会での意見への対応

○前回作業部会での意見

- ・実行計画期間を5年にする背景、自然災害への対応などについて明示したほうが良い



○計画原文（案）

「新循環のまち・ふくおか基本計画」は平成24年度を始期とする14年間の長期計画で策定した。策定時の人口見込みは、約150万人をピークとしていたが、現在、既に160万人を超えている。人口以外にも策定からの10年間で社会情勢は大きく変化した。

今後も続く都市の成長と超高齢社会の到来といった社会課題に柔軟に対応するため、「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」では、10年間の基本方針や目標を示す「長期ビジョン」とともに、5年毎に具体的施策を定める「実行計画」で構成し、変化の激しい社会状況に対応した循環型社会づくりを推進する計画とする。

【過去10年の社会情勢の変化など】

- ① 交流人口
 - ・観光面では中国、韓国を中心としたインバウンドが増加
外国人入国者数：2018年は309.4万人で2011年と比較して5倍超
※韓国、台湾、中国、香港で全体の約75%
- ② 都市の成長
 - ・スタートアップ都市としての地位を確立
 - ・天神ビッグバンや博多コネクティッド等によるオフィスの増床やMICE施設の充実
- ③ 超高齢社会の到来
 - ・高齢化率：平成22年（17.6%）→令和12年（26.3%）
 - ・高齢者単独世帯：平成22年（6.4万世帯）→令和12年（13.6万世帯）
- ④ 頻発する自然災害と災害廃棄物、パンデミックや気候変動への対応
 - ・平成28年熊本地震
 - ・平成29年7月九州北部豪雨
 - ・平成30年7月豪雨
 - ・新型コロナウイルス感染症（令和元年～）
 - ・温暖化対策への新たな枠組み(パリ協定)